



令和 8 年 5 月号

この号の内容

ページ 1

令和 8 年度

一般会計当初予算 消防費総額

ページ 2

過去 5 年の消防費の推移

ページ 3-5

令和 8 年度の主な事業

ページ 6

令和 8 年度新規採用職員の紹介

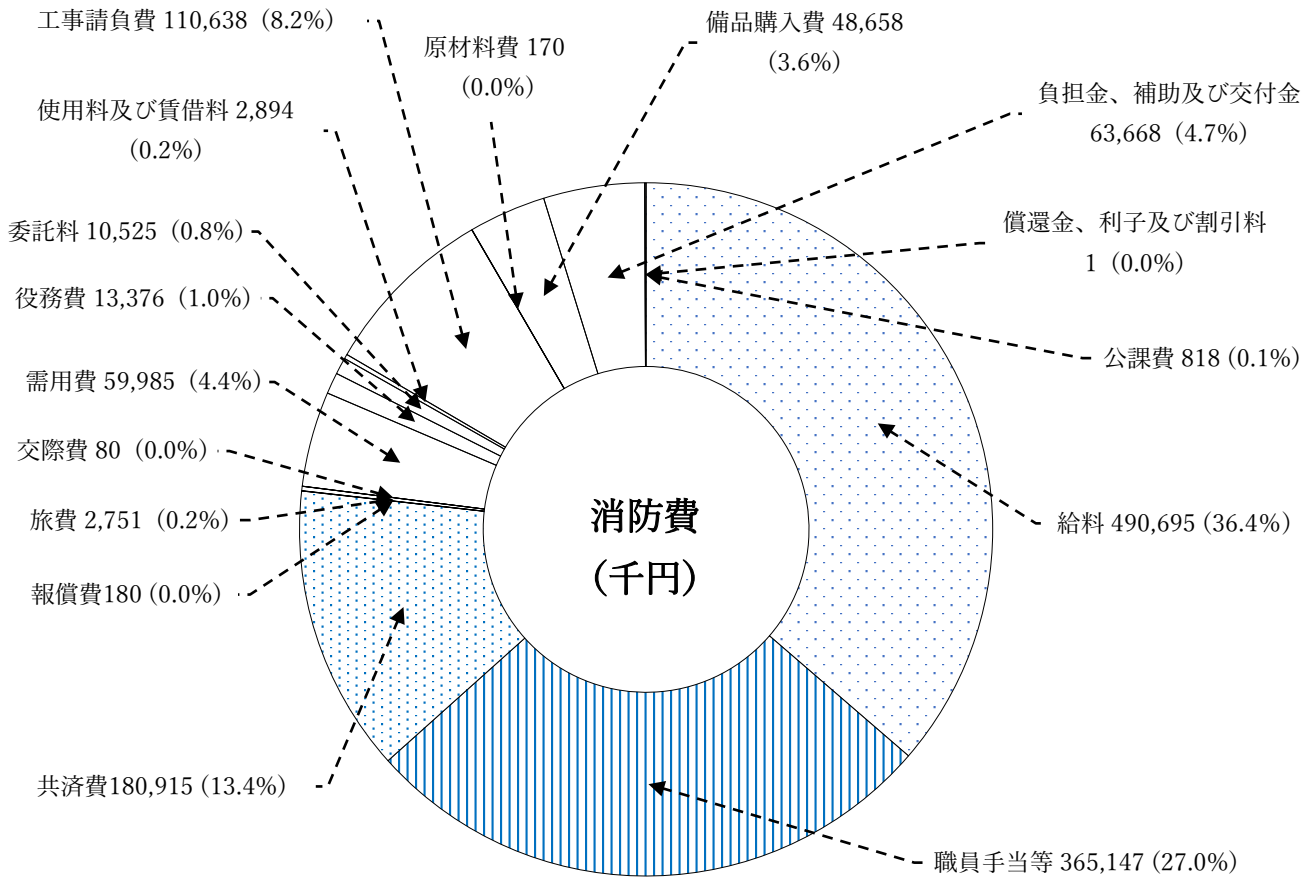


**あぶくま消防本部
管理課だより
【広報誌】**

令和8年度一般会計当初予算 消防費総額

13億5,050万1千円

【単位：千円】

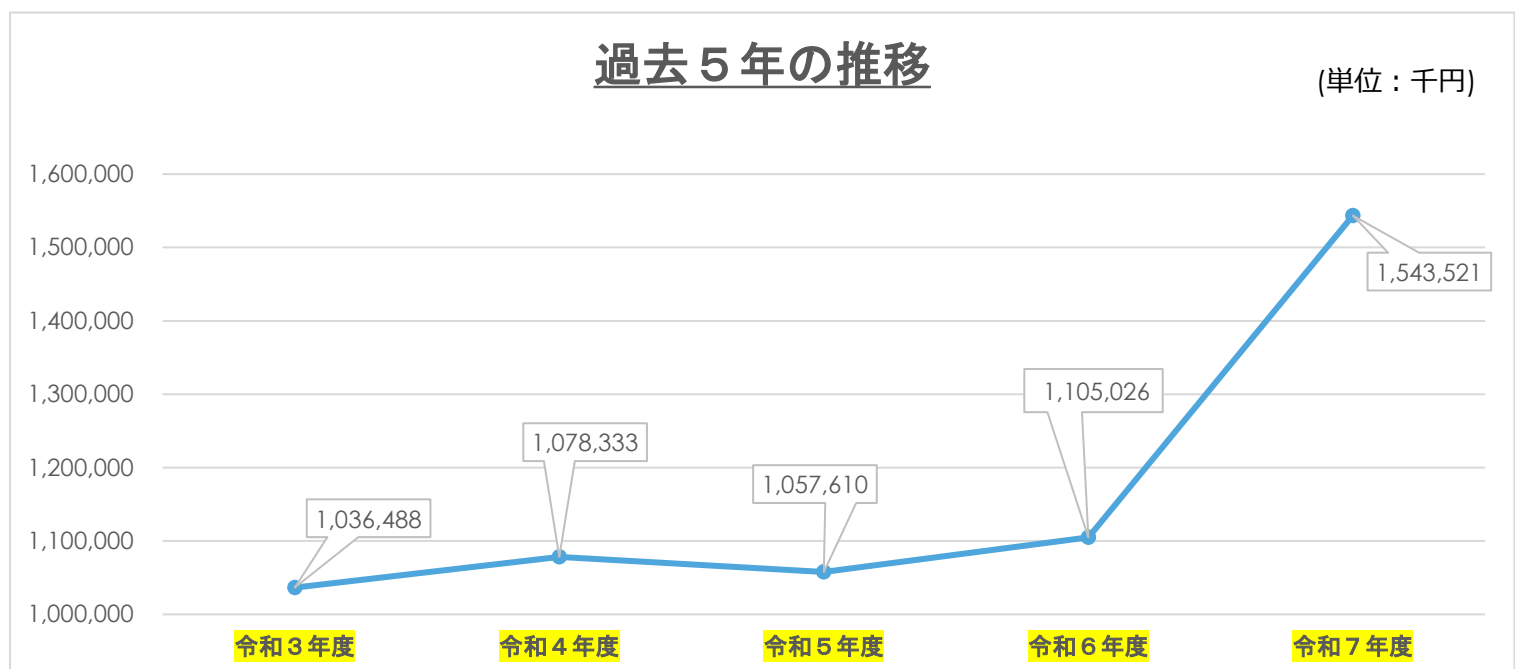


用語解説							
役務費	需用費	交際費	旅費	報償費	共済費	職員手当等	給料
消防が役務(サービス)の提供に支払う経費	消防活動に必要な物品の取得などに要する経費	消防長などが業務上の利益のため外部と公の交渉をするための経費	消防業務のため旅行する職員に対して、支給する経費	消防協力者への謝礼や利益に対する代償	地方公務員共済組合等に対する負担金など	法律又はこれに基づく条例により支給される、諸手当に要する経費	消防職員に支給される給料に要する経費
公課費	償還金、利子及び割引料	負担金、補助及び交付金	備品購入費	原材料費	工事請負費	使用料及び賃借料	委託料
公租公課(税金)を課される場合に要する経費	過年度の交付金確定に伴う返還金に要する経費	消防業務のため、法令や契約等又は特定の事業に対して支払う経費	消防車両や資機材などの物品(備品)購入経費	訓練施設の整備に必要な原料や材料の購入経費	工作物等の製造、移転及び除去等の工事に要する経費	賃貸借契約に基づき、使用する場合などに支払う経費	消防に関する業務を委託し、対価として支払う経費

過去5年の一般会計当初予算 消防費の推移

(単位：千円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
給料	409,132	425,305	419,611	431,969	472,176
職員手当等	304,156	304,453	303,112	319,362	354,434
共済費等	150,116	149,288	145,679	148,378	166,791
報償費	194	194	199	199	199
旅費	2,442	2,572	2,707	2,701	2,762
交際費	80	80	80	80	80
需用費	46,654	56,164	62,793	63,746	67,205
役務費	11,982	14,013	12,668	13,231	18,989
委託料	9,536	9,764	10,130	10,710	11,833
使用料及び賃借料	2,784	2,467	2,383	2,380	2,664
工事請負費	-	-	-	-	332,684
原材料費	145	145	170	170	170
備品購入費	51,439	49,364	55,634	62,020	48,564
負担金、補助及び交付金	46,573	63,696	41,508	49,235	64,041
償還金、利子及び割引料	238	46	1	27	11
公課費	1,017	782	935	818	918
合計	1,036,488	1,078,333	1,057,610	1,105,026	1,543,521



令和8年度の主な事業

高機能消防指令システムを部分更新

◆主な更新機器等

各種指令装置



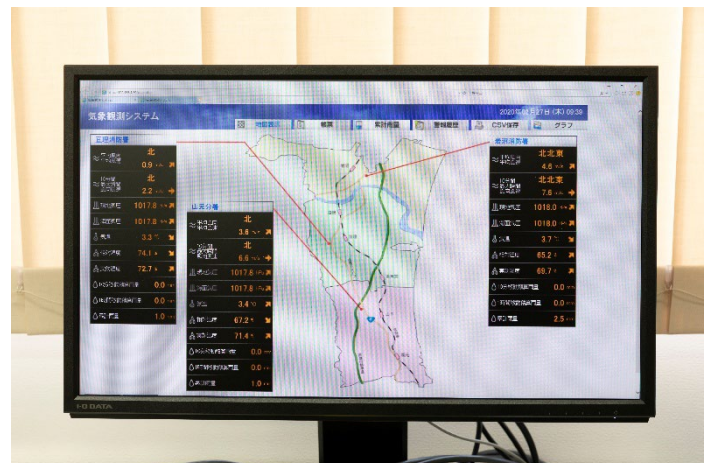
システム監視装置



署所表示盤



気象情報収集装置



※写真は全てイメージです

岩沼消防署 高規格救急自動車を更新



◆高規格救急自動車と合わせて整備予定の資器材

電動ストレッチャー



半自動除細動器



人工呼吸器



自動心臓マッサージ器



患者監視装置



搬送用資器材



※写真は全てイメージです

各種資器材の更新

拡声装置付空気呼吸器(2器)



携帯警報器(2器)



高圧空気容器(6本)



自動体外式除細動器



活動用ランシーバー(10個)



※写真は全てイメージです

令和8年度 新規採用職員の紹介

今年4月に採用された新規採用職員をご紹介します。

- ① 出身地 ② 消防吏員としての目標(抱負) ③ 今一番興味を持っていること



ふたつもり たすく
二ツ森 祐久 20歳

- ① 宮城県岩沼市
② 多様な状況に対応できる消防吏員になれるよう頑張ります。
③ 旅行



いなむら だいや
稲村 太星 19歳

- ① 宮城県川崎町
② どのような状況でも冷静かつ迅速に対応できる消防吏員になれるよう頑張ります。
③ ゴルフ、ドライブ

宮城県消防学校

採用された職員は消防学校に入校し、1年をかけて消防の基礎から救助・救急に至るまで、現場で求められる知識と技術を総合的に学びます。

座学による理論習得に加え、仲間と切磋琢磨しながら、実践的な訓練を通して、災害現場で冷静に判断し行動できる力や、地域の安全を守る使命感とプロフェッショナルとしての姿勢を身につけ、当本部に戻り、現場活動を行います。

